

2009年2月号 vol.198

広報

 兵庫医科大学  兵庫医療大学



兵庫医科大学 平成21年度入試



兵庫医療大学 平成21年度入試

特集 座談会 「兵庫医科大学の教育 これからの取り組みと課題について」

05 最近の主な出来事

< 兵庫医科大学 >

06 知の創造レクチャー / 細胞・遺伝子治療、再生医療シンポジウム

07 学位授与 / 第36回実験動物慰霊祭

< 兵庫医科大学病院 >

08 平成20年度防災訓練

< 篠山病院 >

09 新病院の計画概要

10 ホームページ3月にリニューアル / ささやま探訪

< 兵庫医療大学 >

11 学長メッセージ「3年目を迎える兵庫医療大学」

12 4大学連携における単位互換に関する協定書調印式 /
ポアイ4大学連携事業 / 第1回実験動物慰霊祭

< 学校法人兵庫医科大学 >

13 理事・評議員の異動 / 規程等の制定・改正 / 兵庫医療大学のための募金状況報告

14 永年勤続表彰

15 卒業生紹介

~ 早川 知彦さん(兵庫医科大学 第16期生)

16 職場レポート

~ 兵庫医科大学 公衆衛生学 / 兵庫医科大学病院 11階東病棟 /
兵庫医療大学 薬学部(生体防御学、生化学、生理学)~

19 Join us! - 課外活動紹介 -

~ 兵庫医科大学 競技スキー部・準硬式野球部 /
兵庫医療大学 バドミントン部・卓球サークル~

22 広報誌読者アンケートの結果

兵庫医科大学の教育 これからの取り組みと課題

インタビュアー:古川学務部長

平成21年度から医学部定員が100名から110名になるなど、本学を取り巻く環境が大きく変わってきています。本学が目指す教育や特徴は何でしょうか。



波田 壽一 学長

学長:人間味にあふれ患者さんのことを第一義的に考え、医学的な知識・技能を確実に身につけた、医学的にも精神的にも患者さんから信頼される医師の育成です。そのために、教養では一般常識を培って広い視野を持ち、人格を高めるような教育を、基礎医学では論理的に医学の基本を学び臨床で応用できるくらいまで理解度を深めさせる教育を、臨床では病態、病態生理を学んだ上で患者さんとのコミュニケーション力を身につけ、基礎で学んだ知識を生かせる「応用力」、別な言葉で言えば「知力」を養えるような教育を目指しています。

野口:モデル・コア・カリキュラムの制定など、全国の医学部でカリキュラムに統一性が確立されてきた中で、本学も改善をはかってきました。コミュニケーション力や医師としての倫理力の向上も含め、細かい指導とケアをするカリキュラムを組み、国家試験対策もきめ細やかな指導を重点的にやっていくところに特徴があります。

鈴木:医学教育センターができて4年、情報提供、学習支援を行って来ていますが、効果があったと感じる部分と、こちらからの支援だけでは限界があると感じる部分があります。学生にいかに自覚を持たせ、自ら積極的に学んでもらうかが課題であると考えています。

学長:他大学の学生交流を担当した先生や臨床の現場で指導された先生方からは、本学の学生はおとなしい、自立心や自分自身で取り組む姿勢が少し弱い傾向があると聞きます。いかに自分で勉強、努力する姿勢をつけさせるかが課題です。

野口:素直で性格も温和、医師になっても患者さんから慕われる学生が多い印象です。その分、競争意識はあまり強くなく、おっとりした学生が多いとも言えます。うまくモチベーションを高め、学力をつければ、良い医師となる可能性が高いと思います。

1年生の早期臨床体験実習に加えて、2年生、3年生でも新しい試みを導入されています。また、開学での授業も始まりました。

鈴木:1年生での早期臨床体験実習で病棟、早期臨床体験実習で中央診療部門や学外施設を回り、2年生はエスコート実習で外来患者さんと接し、3年生の在宅ケア実習で患者さんの訪問看護を行います。また、平成20年度から週に1日、開学で授業を受けて他大学の学生たちと交流する場を設けています。そういうことで学生のモチベーションを高めようとしていますが、本来は1、2年生の通常の授業科目の中でも、積極性と自立心を養えるようなカリキュラムを組む必要があると考えています。

開学については「校内で迷った」「再試験がない」などの戸惑いの反応がありましたが、ある意味では狙い通りでした。本学では情報を与えられ、補習や再試験など手厚いサポート環境で育っています。しかし、開学では勝手が違います。わからなければ開学の学生に聞くなどしなければなりません。また、授業の到達目標に1回の試験でどれだけ自分のパフォーマンスを出せるかで評価が決まるとか、社会では当然のことだと思います。そのシステムを知るとい意味でも意義があったと思っています。



野口 光一 教務部長

野口:保護者からのリクエストに応えて、私立医科大学だからこそその手厚いサポートが出来る反面、自立する力、モチベーションの低さが結果的にできています。国立大のように学生に対して国家試験対策を特に行わない大学もある一方、本学の6年間の手厚いサポートのために自力で頑張るパワーが養われてこなかった可能性も否めません。両立をはかるところが教育として難しいテーマだと思っています。

学長:さまざまな目標を持った学生がどんな考えを持ち、どういう勉強をしているかを知ってほしい。そして、世の中に色々な考え方があることを知り、その中で、異なる視点からの話し合いができる友人をつくることは大切だと考えています。開学ではそういうことも感じ取ってほしい。

3年生に基礎配属を導入しました。

野口:かなり頑張った学生もいたようで、基礎研究に触れることで、医学研究への理解とモチベーションが育ってくれたらと思います。教員・学生の意見も取り入れながら、今後も継続していきたいですね。

医学部定員10名増員について

地域医療に従事する医師不足の解消を目的とする「緊急医師確保総合対策事業」、産科・小児科を始めとする医師不足の解消や病院勤務医の就労環境の改善などを目的とする「経済財政改革の基本方針2008に基づく医師確保事業」に基づき、兵庫医科大学の入学定員が平成21年度から10名増員(前者2名、後者8名)となります。

前者は開学当初から続けられている「兵庫県推薦学生制度」を平成21年度入試から2名増員することで定員を確保します。後者は平成22年度入試から実施する、兵庫県内の医師不足地域に保護者等が居住する受験生を対象にした推薦入学制度などにより確保されます。

さらに本学では、平成22年度以降の入学生を対象に、医師が不足する本学診療科に卒業後一定期間従事することを条件とする奨学金(所定の期間従事すれば返済免除)を設置し、安全かつ安定した医療環境の創造に寄与します。

学長:実際に研究している姿を見て医学研究について知ってもらうことが第一です。次に、研究室や先生方とのコミュニケーションが深まれば本学への愛着心も生まれ、本学で研究しようという心を育てることにつながると思います。実習後にも教室に出入りしている学生が約4分の1ほどいたということで、驚きでもあり嬉しい。教員と学生との間の距離を縮め、情報のやり取りで互いに刺激あってほしい。

医師国家試験の合格率が大学の評価にもつながる状況の中、基礎学力の強化と医師国家試験対策の課題は?

野口:5年生でのクリニカルクラークシップ実施など、臨床の実地型、参加型の実習を他大学と比べても積極的に導入しています。しかし、その方向性とペーパーテストである国家試験の方向性が必ずしも同じ方向ではありません。試験自体が偏差値や学力という相対的なもので評価されていて、全国の医学部の学生が対策にかなりの時間をかける必要が出てきています。対策に時間をかけるほど、臨床実習との両立をどうするか。また、低学力者のモチベーションをいかに引っ張り上げるかを非常に難しく感じます。

鈴木:計画的に分野別の模擬試験をいれたり、お互いに刺激しあうようにグループ学習を取り入れたり、あるいは低学力者の合宿、個人面談、医学教育センターでの定期的なフォローなど、



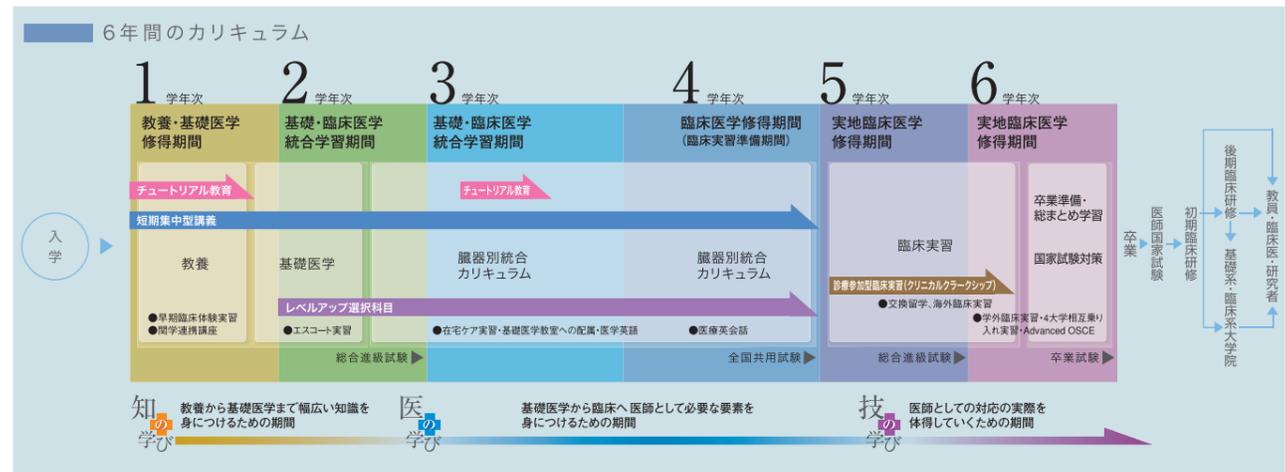
鈴木 敬一郎 医学教育センター長

大学としては出来る限りのサポートをしています。

学長:高校までは及第点は60%ほどですが、今の国試の合格基準は最低65%とらないと合格できない。そういうことを勘案して、本学では合格基準を65%に変えましたが、その変えたことの意味を学生も教員もあまりわかっていないのではないのでしょうか。従来の60点を65点にすればいいんだという発想の教育ではまずいし、学生もそういう学力では間に合わないという自覚を1年生のころから持って勉強する習慣をつけなければいけないと考えています。

野口:これだけは教えたい、理解して欲しいということが各教員にはありますが、結果的にカリキュラムが昔に比べてきつくなっていきます。昔は1年間かけて学んでいたことを今は3、4ヶ月でやらなければなりません。今の国家試験を目指して必要なところに絞るとい作業があるのかもしれませんが、長年医学教育に関わってこれた先生方には非常に葛藤があるところだと思います。

鈴木:本来はモデル・コア・カリキュラムで基礎と臨床が統合するメリットは、この骨や筋肉の名前を覚えることは整形外科で治療する場合に必要であり、この臓器のメカニズムを学ぶことは将来コレステロールが高い患者さんを診るときに必要ななど知識をどのように使うかを教えられることです。丸暗記では最低限のことだけでクリアしようとしてしまいます。例えば思い切って講義時間数を減らして、知識の使い方を含めてメインとなる時間にかけ、少人数教育のチュートリアルなどを導入して自分で勉強できるところは各自で学習するなど、教員・学生双方が意識改革をしていかなければいけないのかもしれない。



平成21年度から医学部の定員が10名増えます。本学の対応として何か変わることは?



古川 信衛 学務部長

学長:平成22年度から、センター試験の導入や、地域指定の推薦入試の実施、医師不足の診療科を志望する学生に奨学金を給付するなど新しい策を考えており、うまく機能すれば学力低下を補うことができると期待しています。しかし、定員増員に伴い学力が低下した場合を想定した対応策を検討しておく必要性を感じています。

野口:平成21年度入試に関しては、全国的に一般入試が増える大学が多く、国立大学の枠が広がると考えたほうが良いかもしれません。それがどのように本学に影響を与えるかは予測が難しい。どのような学生が入学してくるかを見極め、慎重に対応する必要があります。しかし、そのためにすくカリキュラムを大きく変えることは無いでしょう。また、医師不足だけでなく、不況の時代を生き抜くために医師を目指す受験生が増える可能性はあるでしょう。医学部受験に関しては大きく影響しないと思われます。

鈴木:この少子化の時代、少人数クラスで学んできた学生が、100名を超えるような大講義形式での教育についていけるかどうか心配です。緊張感を得られるような授業内容、形態の工夫が必要です。一部の教養の授業では実習組と講義組50名ずつにわけて授業を行っている先生もいますので、今後はそういうケアが必要になってくると思います。改革にはカリキュラムに余裕が必要です。ただし、医学教育を行ううえで、マンパワーが不足しています。本来の診療科、講座の仕事もあり難しい面もありますが、医学教育にももう少し時間を割いてもらえるような体制を作るなど、何らかの方策が必要です。是非、目に見える形での教員評価を期待します。

入試に関しては多様化し、地域指定で入学した学生を、1年生から地域にフィールドワークに行かせるとか、外科志望の学生を1年生の時点で外科学教室に出入りさせるなどすると、学生のモチベーションも高まると思います。



授業風景

また、近年、研修医のマッチングで本学を希望する学生が増えています。本学は丁寧な指導をしており、待遇面も大学病院としては非常に良く、交通の便も良いからでしょう。加えて、積極的に母校をよくしようという気持ちで残ってくれると嬉しいです。勉強だけでなく、学生時代の臨床実習の様子も含めて、幅広く医療に対して真剣に取り組む姿勢のある学生に残っていただきたいと思っています。

地域医療に対する取り組みはどうでしょうか。「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム(地域医療と高度先進医療の融合による新たな教育システムの構築)」「(島根大学・鳥取大学・神戸大学・兵庫医科大学との連携)なども行われています。

学長:都市部の病院と僻地の大学・病院とが交流することによって少しでも僻地医療を活性化したい。あるいはそこに定着するような医師を育てたいという意図はあります。それがどのくらい機能するかはまだわかりません。今は専門を評価するような風潮がありますが、もう一方では総合医・家庭医が必要であるということも言われています。総合医・家庭医も専門医と同じレベルであるという認識があって、評価もきちんとされるべきです。理想は、本来の専門性を身につけ、1つの柱を持って、総合医・家庭医になるというのが、地域貢献する時に仕事をしやすくすると思います。

鈴木:学生は地域医療に対してやりがいを感じ、また必要性もわかっています。篠山病院での実習も概ね好評です。ただ、よりレベルの高い知識・技術を身につけたいという希望もあります。小さくは大学、大きくは国レベルで、本人の希望と地域医療を両立させるような卒後の研修システムやコース設定などを明確にして、安心して地域医療に取り組みめるような体制を作らなければいけません。義務年限9年終了後の20年、30年に至るまで、地域医療に従事する人に対して生涯教育も保障する、というようなことを大学や国が示したら、在学中に芽生えた地域医療へのやりがいや志向を育てることができると思います。

兵庫医療大学との連携がチーム医療を学ぶ上で強みとなります。

学長:今の医療は医師単独で行えるものではなく、チーム医療の中で医師とコメディカルの協力が不可欠です。コメディカルそれぞれの知識・技能が医師のそれとは別のものであることをきちんと理解して、同僚であり対等な立場であるという観点でチームワークが組めるような医師を育てたい。学生時代から、可能な範囲で交流し勉強したり体験したりすることは非常に重要です。

野口:同じ医療職であっても違う職種の人とうまくコミュニケーションをとれない学生も一部いるようです。学生時代から異なる職種の人とも交流し、きちんとコミュニケーションを取ることができる人材を育てることがテーマだと思っています。

鈴木:平成21年度は、兵庫医科大学の1年生が兵庫医療大学のキャンパスに行き、2日間ほど交流し、共通した健康問題を話しあうなど基盤作りのなものをを行う予定です。具体的なチーム医療としては、平成22年度から兵庫医療大学の4年生と兵庫医科大学の3年生が症例を用いたチーム医療チュートリアルを予定しています。例えば脳梗塞の患者さんの症例の場合、急性期では治療を中心に、慢性期にはリハビリをどうするか、最近では急性期のベッド上でもリハビリが始まりますので、看護学・リハビリテーション学・薬学の3学部と医学部の学生が共に勉強できるような症例を選んでチュートリアル教育を行いたいと思っています。

視野の広い学生を育てるためにも、国際交流推進にも力が入ります。

学長:在学中に国際的な環境の中で勉強する機会を与えて、視野の広い学生を育てたいと考えています。平成20年度はクロアチア・リエカ大学との交換留学が良いかたちで実現し、コロンビア大学への短期留学なども好評で、学生レベルでの交流が盛んになっ

てきています。英語教育に力を入れたカリキュラムにして、さらにTOEIC(既に導入済)を利用するなど基本的な学力として強化していきたい。今後は山頭大学が関わっているホスピスを中心にした実習や、天津医科大学との大学院生の交流など、新しい試みも具体的につめていきたいと考えています。

野口:実際に外国で生活しながら大学や病院で勉強するのは、観光とはまったく違う経験です。人間としての幅、自信が違ってきます。異文化の中でも頑張れるような学生を育てるために国際交流を推進していきたいと思っています。

鈴木:英語に興味がある学生、世界に羽ばたいていきたい学生にはどんどん機会を提供してサポートしていきたいですね。国際交流が積極的な大学になると、多くの学生が英語へ興味を持つようになるし自信にもなります。将来的には自分から留学したい場所を探してきて、サポートして欲しい、という申し出が増えるといいと思います。



平成21年1月9日 学長室において



国際交流:平成20年7月 クロアチア・リエカ大学との交換留学にて本学のPETセンターを見学

とか世界一を目指して、医療や研究の面で頑張っていたきたい。

野口:本学の学生は性格が良い子が多く、卒業後の評判も高いので、課題となっている自立心を育てることができれば、伸びていく余地は高いと思います。また、受験生や卒業臨床研修医の中で本学の人気が高まりつつあります。我々の使命として教育の質を高め、卒業後の生涯教育も含めてキャリアパスをきっちり示せるような体制をとってほしい。大学の使命である教育の力を伸ばすことで、学生、卒業生、教職員の本学への誇りを高める方向でぜひがんばってほしいと思います。

学長:学生には、医学生としての誇りを持って欲しい。行動・振る舞いにも良識ある行動をとり、我々が向き合うべきは患者さんであるということを忘れないで、日々研鑽を積んでほしい。また、一人ひとり無限の可能性をもっているのですから、個性を磨いて欲しい。着実に進級するということを肝に命じて、医師になるという目的意識を持って勉強してほしいですね。

最後に

鈴木:学生には自信をもってほしい。入試や医師国家試験までの間は長く辛い勉強の期間が続く苦労するでしょうが、卒業してから自分のスペシャリティを大いに伸ばせばいい。関西一とか日本一

勉学と両立させながら、体育会系、文科系のクラブ・サークル29団体が活動しています。兵庫医科大学病院と連携してボランティア活動も積極的に行われています。

学生ボランティアグループ「WITH YOU」

主に病棟内において患者さんに対するボランティア活動を総勢70名で行っており、その多くが他のクラブ・サークルと兼部しながら参加しています。

主に、一般病棟への移動図書館による本の貸し出しや、小児科病棟に入院している子供達の遊び相手や学習サポートをさせていただいたり、エコキャップ運動の推進、USJのキャラクターたちによるショーの開催、大学祭で献血車を誘致したりするなど、様々な活動を行っています。



エコキャップ運動

学生ボランティアグループ「WITH YOU」が中心となり、社会貢献運動の一環として、「NPO法人 エコキャップ推進協会」が推進するペットボトルのキャップを回収して、世界の子供にもワクチンを届けようという「エコキャップ」運動に参画しています。

大学、病院内の9箇所に回収箱を設置し、学生をはじめ患者さんや教職員にも回収を呼びかけ、一人でも多くの子供たちにもワクチンを届けるために、ペットボトルのキャップ回収に励んでいます。



最近の主な出来事

12月 DECEMBER

1	兵庫医科大学病院 兵庫医科大学支援型保育園オープン	保育園が「兵庫武庫川園」がPETセンター南隣のビル4階にオープンしました。子育て支援の充実を求める教職員の声に応えるため、保育園と提携し、本学が定員39名のうち30名を教職員の専用枠として確保したものです。専用枠では週2回(火・金)24時間保育を行い、夜間勤務にも対応します。
6	兵庫医科大学 平成21年度推薦入学試験 <併願制B日程>	12月12日合格発表(広報197号(前号)で結果を掲載)
	兵庫医科大学 「ボーアイ4大学による連携事業」開設記念シンポジウム 主催:ボーアイ4大学連携推進センター 後援:兵庫県、神戸市、神戸市教育委員会、神戸商工会議所、港島自治連合協議会、神戸水上警察署、神戸水上消防署、神戸ファッションタウンネットワーク	神戸商工会議所 神商ホールにおいて開催されました。 基調講演:新野 幸次郎氏(神戸都市問題研究所 理事長) パネリスト:神戸学院大学 岡田 芳男学長 神戸女子大学・神戸女子短期大学 波田 重昭学長 兵庫医科大学 松田 暉学長 コーディネーター:ボーアイ4大学連携推進センター 金芳 外城雄センター長
10	兵庫医科大学病院 市民健康講座	第3会議室で「甲状腺の病気・パセドウ病と橋本病」をテーマに内科 内分・代謝科 森脇 優司臨床教授が講演を行いました。
11	兵庫医科大学 実験動物慰霊祭	P7をご覧ください
15	兵庫医科大学 第2回全教職員フォーラム	M113講義室で、「兵庫医科大学を特色ある大学にするための提言」をテーマに開催されました。教職員による「特色ある大学をめざして」「地域連携における大学の役割」「問題基盤型学習(PBL)への挑戦経験」等の発表が行われました。
17	学校法人兵庫医科大学 第2回丹波山物産展 主催:有限会社クリエイトささやま 協賛:篠山市、兵庫医科大学	午前11時から1号館1階西側において、第2回目となる丹波山物産展が開催されました。前回に引き続き、黒大豆や山の芋、地野菜、米、黒豆を使った加工品や銘菓など、丹波篠山で人気の特産物が販売され、盛況な売れ行きとなりました。
18	兵庫医科大学 学位授与式	P7をご覧ください
	兵庫医科大学病院 小児病棟クリスマス会	プレイルームにおいてクリスマス会が開催されました。わかさ学級の発表や1年目の看護師による出し物があり、プレゼントを届けにきたサンタクロースやトナカイと一緒にクリスマスソングを歌うなど、入院中の子供たちが楽しいひと時をすごしました。



兵庫医科大学支援型保育園オープン



「ボーアイ4大学による連携事業」開設記念シンポジウム



市民健康講座「甲状腺の病気・パセドウ病と橋本病」



第2回丹波山物産展



小児病棟クリスマス会

1月 JANUARY

5	兵庫医科大学病院 平成21年新年交礼会	午後5時15分から第2会議室において行われ、教職員が互いに新年の挨拶を交わしました。
9	兵庫医科大学 ボーアイ健康推進プロジェクト学術講演会	P12をご覧ください
14	兵庫医科大学病院 市民健康講座	第3会議室で「体にやさしい子供の手術(鏡視下手術)」をテーマに小児外科 奥山 宏臣准教授が講演を行いました。
16	兵庫医科大学病院 防災訓練(トリアージ訓練)	P8をご覧ください
17	兵庫医科大学 地域交流プロジェクト公開講座 “高齢者を介護する人のための支援” 第5回「～そのときあなたが困ったら～」	M304実習室で「介護保険で活用できる社会資源」をテーマに神戸市保健福祉局 高齢福祉部介護保険課 浜田 博司課長にご講演いただきました。
23	兵庫医科大学 知の創造レクチャー	P6をご覧ください
28	兵庫医科大学病院 市民健康講座	第3会議室で「ちくのお話」をテーマに耳鼻咽喉科 竹林 宏記助教が講演を行いました。
29	兵庫医科大学病院 肝疾患相談センター相談受け付け開始	兵庫医科大学病院は、兵庫県から肝疾患診療連携拠点病院として指定を受け、病院内に「肝疾患相談センター」を開設しています。29日から医療情報の提供と医療機関紹介、講習会等案内を開始しました。(詳細は兵庫医科大学病院 肝疾患センターのホームページ参照)



平成21年新年交礼会



市民健康講座「体にやさしい子供の手術(鏡視下手術)」



地域交流プロジェクト公開講座



市民健康講座「ちくのお話」

TOPICS

一般入学試験が行われました

広報199号で結果を掲載予定

1/31	兵庫医科大学 平成21年度一般入学試験(前期A日程)	2月17日合格発表
2/1	兵庫医科大学 平成21年度一般入学試験(1次)	2月9日合格発表
	兵庫医科大学 平成21年度一般入学試験(前期B日程)	2月17日合格発表
2/11・12	兵庫医科大学 平成21年度一般入学試験(2次)	2月18日合格発表
2/28	兵庫医科大学 平成21年度一般入学試験(後期日程)	3月10日合格発表

兵庫医科大学第4回 知の創造レクチャー開催

平成21年1月23日(金)平成記念会館において「兵庫医科大学第4回 知の創造レクチャー」が開催され、約550名が参加しました。

兵庫医科大学では、平成17年に創設された「兵庫医科大学レクチャーシップ」により、毎年、知の創造者とも言われる研究者を学外からお招きして、最新の医学研究講演会を開催し、教職員、学生、並びに近隣の医学研究者の方々の学問研究の一助となるよう取り組んでいます。

第4回目となる今回は、アポトーシス研究の第一人者として知られる、京都大学大学院医学研究科 教授 長田 重一 先生(文化功労者、朝日賞受賞者)をお招きし、「アポトーシスと死細胞の貪食」をテーマにご講演いただきました。

「アポトーシスとは」から、「アポトーシスと死細胞の貪食・分解が生体の恒常性を維持する上でいかに重要な過程か」までわかりやすくご説明いただきました。

長田先生は「サイエンスは面白い。学生さんには、我々がいかに楽しく研究しているかということを知ってほしい」と話されました。講演会終了後には質疑応答も行われました。



長田 重一 教授



外科学(肝・胆・膵外科) 藤元 治朗 教授

「アポトーシス」とは

ギリシャ語で木の葉が落ちる(秋になって次の世代のための準備をする)が語源で、イギリスの病理医が名づけた。発生段階での余分な細胞の除去(指間細胞)や変態過程での細胞の除去(オタマジャクシのしっぽ)、新陳代謝(老化した細胞の除去)、害となる白血球の除去、ウイルス感染細胞、癌細胞の除去などでおこる細胞の死に方。

アポトーシスと死細胞の貪食・分解

人間には60兆個の細胞が存在し、毎日10～100億の細胞が死に、また増殖を繰り返している。アポトーシスや死細胞貪食・分解の異常により、次のようなことが起こる。

- 1.アポトーシスの欠陥は癌や自己免疫疾患をもたらす
- 2.過剰なアポトーシスは組織の破壊、神経変性疾患をもたらす
- 3.アポトーシス細胞を効率よく貪食処理できなければ全身性エリテマトーデス(SLE)に似た自己免疫疾患へと導く
- 4.アポトーシス細胞のDNAを分解できなければ強い炎症反応を引き起こし、インターフェロン(IFN)や腫瘍壊死因子(TNF)を介して貧血、関節炎を発症する



講演会終了後の質疑応答

細胞・遺伝子治療、再生医療シンポジウム開催

平成21年1月30日(金)4-1講義室において、「細胞・遺伝子治療、再生医療シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムは、先端医学研究所細胞・遺伝子治療部門が研究代表者となり平成18年度に採択された社会連携研究推進整備事業等(現、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、社会連携研究推進区分)で義務づけられている研究成果中間発表報告会を兼ねたもので、下記の報告と講演会が行われました。



後藤 章暢 教授

開会の挨拶:波田 壽一 学長

第 部:プロジェクト中間報告

- 1.「遺伝子治療用キヤリア細胞の開発」先端医学研究所 細胞・遺伝子治療部門 後藤 章暢 教授
- 2.「脳梗塞治療用神経幹細胞の開発」Part.1 生理学 生体情報部門 西崎 知之 教授
- 3.「脳梗塞治療用神経幹細胞の開発」Part.2 先端医学研究所 神経再生研究部門 松山 知弘 教授
- 4.「炎症制御性リンパ球の誘導と蓄積方法の開発」先端医学研究所 生体防御部門 岡村 春樹 教授
- 5.「治療用血管血球系細胞、間葉系幹細胞の開発」先端医学研究所 細胞移植部門 藤盛 好啓 准教授

第 部:招聘講演

- 1.「再生医療・細胞培養施設対応技術(GMP)に準拠した施設づくり」
鹿島建設株式会社 医療福祉推進部 ライフサイエンス推進室 室長 阿川 清二氏
- 2.「CPCの発展:過去と未来」三洋電機株式会社 バイオメディカ事業部 ソリューション営業部 GMPアドバイザー 山崎 晶夫氏

第36回実験動物慰霊祭

平成20年12月11日(木)9-1講義室において、第36回実験動物慰霊祭が挙行されました。

実験動物慰霊祭は、本学の医学教育・研究及び医療の向上のために、尊い命を捧げてくれた多くの実験動物の御霊に対し感謝の意を表すため、毎年12月に挙行されております。

全員黙祷の後、動物実験施設 佐加良准教授による慰霊の詞が捧げられました。次に学長、動物実験委員長、動物実験施設長、実験動物管理者、学務部長に続いて参列者全員が順次献花を行い、動物の御霊が安らかならんことを祈りました。



学位の授与



内科系 **土居 隆**

学位論文名

甲第515号 (H20.3.31)

Aldosterone induces interleukin-18 through endothelin-1, angiotensin II, Rho/Rho-kinase, and PPARs in cardiomyocytes
 (アルドステロンは心筋細胞において、エンドセリン1、アンジオテンシン を増加させ、Rho/Rho-kinase、PPARを介してIL-18の発現を亢進する)



外科系 **増田 明子**

学位論文名

甲第516号 (H20.10.31)

Morphological and immunohistochemical characterization of the trigeminal ganglion neurons innervating the cornea and upper eyelid of the rat
 (ラットの角膜と上眼瞼に分布する三叉神経節ニューロンの形態学的免疫組織学的特徴)



小児科学 **蔡 水沼**

学位論文名

乙第309号 (H20.12.14)

Association of CT60 Polymorphism of the CTLA4 Gene with Graves'Disease in Taiwanese Children
 (台湾人の小児グレーブス病におけるCTLA4遺伝子のCT60多型現象の関連について)



肝胆膵外科学 **西野 雅行**

学位論文名

乙第310号 (H20.12.4)

Hepatocyte growth factor improves survival after partial hepatectomy in cirrhotic rats suppressing apoptosis of hepatocytes
 (肝細胞増殖因子(HGF)は肝細胞のアポトーシスを抑制することで肝硬変ラットにおける肝切除後の生存率を改善させる)

平成20年度防災訓練 実施

平成21年1月16日、一般国道でバスが横転し、それに伴い複数の玉突き事故が発生し多数の負傷者が当院に搬送されるという想定で患者受け入れの訓練を行い、医師25人、看護師65人、学生56人、事務40人など約200名が参加しました。兵庫医科大学病院は平成8年10月に災害拠点病院の指定を受け、地域災害が発生した場合に患者受け入れの拠点病院となります。このため、毎年想定を変えながら現実に即した防災訓練を実施しています。

訓練開始の放送と同時に、救急車や一般車両、徒歩等で次々と到着する患者に対し、救命救急センターの医師が治療や搬送の優先順位を決めるトリアージを実施。看護師や事務員が補助しながらトリアージタグの色分けに従って救命救急センターや病棟、処置室へ搬送・誘導する訓練を行いました。

訓練後、山村病院長が「チーム連携の難しさや情報伝達での課題が明らかになった。訓練でうまくいかなかったところは反省し、次に活かしていきたい。一年一年進歩し、万が一の災害に備えたい」と話されました。また、今回は授業(診察法実習)の一環で学生が仮想患者や家族等として初めて訓練に参加しました。吉永教授は「患者さんやご家族の気持ちを考えられるいい経験になったと思う。医師になっても思い出して」と学生に語りかけられました。



医師と看護師が付き添って病棟に搬送



「多くの負傷者が搬送されると、本来の病院機能が麻痺してしまいかねない。災害時の体制作りと訓練が重要」
橋本医師(右端)



「重篤な状態で一刻も早い処置が必要」と診断、赤色タグを装着(救命救急センターに搬送)



歩ける人は軽症者コーナーへ誘導し、トリアージを実施

学生の感想

実際にストレッチャーの上に乗せられ、大勢の医師に囲まれていると、「大丈夫なのだろうか」と不安になる気持ちが分かった。(仮想患者役)

軽症であっても患者は不安な気持ちでいっぱい。他に重傷者がいて余裕がないとしても、丁寧に接することが重要だと思った。(仮想患者役)

「意識が朦朧とする」役割ですと目をつぶっていたが、常に誰かが側で話しかけてくれたことで安心した。(仮想患者役)

自分が医師になったら、余裕がない状況であっても、出来る限り家族の気持ちを考えて寄り添えるような対応をしたいと思った。(患者の家族役)



訓練後の総括(左から成瀬准教授、吉永教授)



「死亡」を示す黒色タグをつけられた患者の友人役の学生が医師に詰め寄る

■新病院の計画概要について



新病院は篠山市の都市計画区域内に建設されます。敷地面積は約17,278㎡(既設ささやま老人保健施設・リハビリテーションセンター敷地を含む)、鉄筋コンクリート造、地上4階建て塔屋1階、建物の高さは20.20m。

兵庫医科大学篠山病院は、国立篠山病院から経営委譲を受けて平成9年10月に開設されて以来、篠山市の中核病院としての役割を果たしてきました。今回の建設計画は、平成20年7月14日に兵庫県、篠山市と本学の間で締結された「兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定書」に基づき行われることとなります。

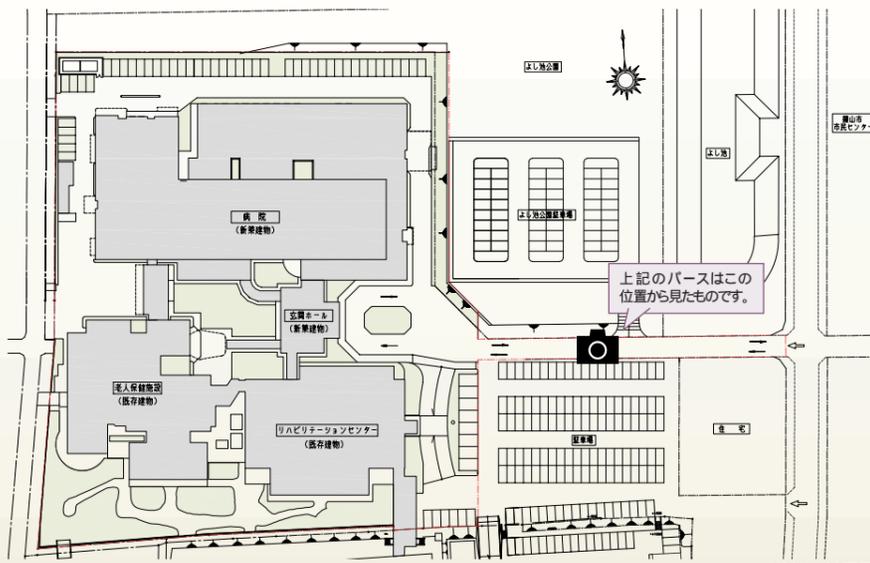
<建設方針・配置計画>

既設建物のささやま老人保健施設・リハビリテーションセンターの北側に新病院を建設します。現在、建設地は篠山市の所有する公園となっており、公園グラウンド部分と公園駐車場部分の高低差を造成しての工事となります。新病院棟とささやま老人保健施設・リハビリテーションセンターの1階床の高さを合わせることで、バリアフリーを実現します。建物東面、北面、西面には通路を設け、サービス導線・職員用の駐車スペースを確保します。また、篠山市の条例により緑地率20%以上の確保が定められており、敷地内に緑地帯を設けます。

1階に外来診療機能を集約させ、利用者にわかりやすい配置とします。検査部門や薬剤部門、管理部門、厨房なども1階に配置、2階は療養病棟、3階は一般病棟、4階は一般病棟と手術室などを計画しています。

外装では、南側にバルコニーを設けます。建物上部には形状は異なりますがささやま老人保健施設と同様に庇を設け、統一感を持たせます。外壁面は、基本的にタイル張りとし、将来の汚れなどにも配慮した仕上げとします。

内装は温かみのあるインテリアを目指します。廊下などの空間の継続する部分などは塗装を施し、運用時の補修などを行いやすくします。手すり材や保護材などについては木質系のデザインのものを使用する予定です。病室などはビニールクロスを中心に考え、窓額縁には木目柄のシート張りの材料を設け、住宅に近い内装とし、落ち着いた空間をつくります。



敷地の計画図

篠山病院等ホームページ3月末にリニューアル

兵庫医科大学篠山病院ホームページ制作委員会委員長
宮居 健(地域総合医療学講座)

平成20年8月に兵庫医科大学、兵庫医科大学病院、学校法人兵庫医科大学の3つのホームページがリニューアルされましたが、篠山病院、リハビリテーションセンター、ささやま老人保健施設のホームページについては、篠山病院存続問題の経緯を見守るためリニューアルを一時凍結しておりました。このたび正式に篠山病院の存続が決定したことを受け、再開できる運びとなりました。リニューアルホームページの制作再開にあたりホームページ制作委員会を発足し、各部門から選抜された委員の方々と随時検討しながら新ホームページを作り上げています。

今回のリニューアル方針として

- 1.地域住民をはじめ患者さんにわかりやすく、親しみの持てるものにする。
- 2.地域の病院・診療所に対してもわかりやすく、情報提供や連携をとりやすいものにする。
- 3.情報発信や更新を頻繁に行えるように、情報入力が簡易なシステムを導入する。
- 4.兵庫医科大学(病院)との連携が感じられる一体感のあるホームページにする。

を掲げ鋭意制作してまいります。なお、リニューアルオープンは平成21年3月末を予定しております。



平成21年1月21日 ホームページ制作委員会

ささやま探訪

イベント

『猪がとび込む牡丹鍋』第6回 丹波篠山冬の味覚「いのしし祭」
平成21年1月31日に篠山城跡周辺で丹波篠山の特産「いのしし」を使ったイベントが開催されました。当日はあいにくの雨でしたが約3千人が訪れました。



丹波篠山築城400年祭マスコット「まるいの」も登場!
(丹波新聞社提供)

『食べる』 飲食には「いのしし券」(1しし = 100円)が必要!!!

『屋台村』

地元の名店が並び、いのしし丼(5しし)や猪ラーメン(4しし)、猪汁うどん(4しし)などバラエティーに富んだいのしし料理が楽しめ、地酒試飲販売で丹波杜氏のふるさとの味を堪能できました。

『直営売店』

年に数回しか販売されないご当地ハンバーガー「たんばーがー」(4しし)と「いのししの丸焼き(5しし)」が大人気でした。

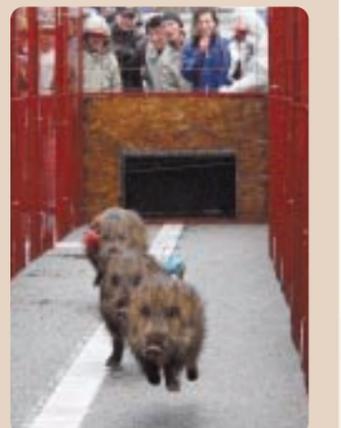
『あそぶ』

『ドドいのしし猛レース』

野生のいのししが商店街に設置された20メートルのコースを駆け抜ける迫力満点のレース。1位を当てた人の中から抽選で地元特産品が贈られました。

『ちるみゅーお遊び広場』

篠山チルドレンミュージアム(篠山市小田中)が遊び広場を開設、懐かしい遊びがいっぱいで大人も子どもも満喫しました。



ゴールを目指すいのしし
(丹波新聞社提供)



学長メッセージ

3年目を迎える兵庫医療大学

学 長 | 松田 暉

兵 庫医療大学も開学以来すでに2年を過ぎようとしています。この3月には待ちに待った体育館も完成し、4月には3期生が入学し、いよいよ大学としての重みも増して、完成年度を迎える前の重要な時期に入っていきます。

今 社会は医療について大きな関心を持っており、医療崩壊という今までは考えられなかった見出しが新聞を賑わしています。医師不足や偏在ということが表面化して、社会現象としてとらえられるようになってきました。そもそも日本の医療は現場の医療従事者の献身的、奉仕的な努力で維持されてきたものであり、多くの構造的な無理があったものが今やっと表面化してきたともいえます。

そ の中で大事なことは、医師だけではなく医療専門職者全体が医療現場で不足している、ということであり、もう一つは、医療を行うのは医師の専権事項では成りゆかなくなっていて、看護師、薬剤師をはじめとする医療専門職者が分担出来るように制度を変えて行こうという機運が出てきていることです。このような社会的な変化に注目しながら、その時代が来ることを想定して学生を教育し、世に出していくという本来の使命の重要性を改めて感じています。

3 年目になりますと予定教員もほぼ就任し、専門領域の講義や実習も増え、いよいよ大学としての大事な活動時期にはいります。まずは円滑なスタートを切るというこれまでのスタンスから、いよいよ本格稼働が始まるという意識の切り替えをしなければなりません。ギアチェンジであります。兵庫医科大学との連携では、医学・医療教育研修センターも活動が始まり、秋には医学部学生との合同チュートリアルも開始されます。これまで目指してきたポータルな環境でチーム医療教育を推進するという目的に向かってさらに前進する年になります。

大 学院については、平成22年春の申請、平成23年度開始という計画がありますが、いよいよその準備の年となります。冒頭で述べた医療専門職者の専門認定制度と連携できるような高度専門職教育や、3学部横断的な総合医療系大学院など、本学の特色を生かした構想が求められます。大学院計画を考える上で大事なことは、これまでは大学全体のイメージ作りや特徴のアピールをしてきたところから、各学部の特徴をより鮮明にしていくフェーズに入ることです。そういう意味でも、各学部の教員は一層の自覚と使命感を持って、日々本学の目指す教育と研究に力を注いでほしいと思います。

開 学3年目は決して甘い気持ちでは乗り切れるものではなく、教職員一同がこの大事な年を正念場と捉えて、一層気持ちを引き締めて、大学作り邁進してほしいと思います。「初心忘れず」も大事ですが、新たなものを作っていくには「発想の転換」が必要であることも加えて、学長としてのメッセージとします。今後とも皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。



体育館外観(正門から) 平成21年2月10日撮影

神戸ポートアイランドキャンパス4大学連携における単位互換に関する協定を締結

神戸学院大学、神戸夙川学院大学、神戸女子大学・短期大学、兵庫医療大学の4大学は、大学間の教育・学術に関する連携協力ならびに地域貢献を目的に、平成20年1月29日に「神戸ポートアイランドキャンパス4大学連携協定」を締結しています。

この協定に基づく連携活動の一環として、平成20年12月17日、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス内で「神戸ポートアイランドキャンパス4大学連携における単位互換に関する協定」を締結しました。



左から
兵庫医療大学 松田学長、神戸女子短期大学 長瀬副学長
神戸夙川学院大学 渡瀬学長、神戸学院大学 岡田学長

ポーアイ4大学による連携事業

ポーアイ健康推進プロジェクト学術講演会開催

薬学部 教授 前田 初男

平成21年1月9日、オクタホールにて開催し、ポーアイ4大学連携事業の一つとして「ポーアイ健康推進プロジェクト学術講演会」を九州大学芸術工学研究院・平井康之先生に「ユーザー参加型デザイン～インクルーシブデザインの世界～」という演題でご講演いただきました。当日は、208名の参加者とともにインクルーシブデザインの世界に陶酔しました。

平井先生は「子どものくすり」をテーマにデザイン開発に取り組んでおられ、昨年度のキッズデザイン賞とグッドデザイン賞を受賞されています。今回の講演会では、ご自身の活動や英国における取組みを踏まえ、ユーザー参加型デザインの基礎から医療現場における実践まで詳しくお話しいただきました。本学の学生にも勉強になったと考えています。

ユーザー参加型デザインには、患者さん中心の医療や全人的医療に通じる概念があります。医療現場におけるユーザーつまり患者さんが困っていることに気づき、治療方法に落とし込む、まさにユーザー参加型デザインです。これからの医療現場に必要な共感力や想像力のある医療人を育てるためには、患者さん参加型デザインを体験できるワークショップが非常に有効な教育ツールだと考えています。このような特色ある教育活動を兵庫医療大学において実現するため、皆様のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



第1回実験動物慰霊祭

平成21年1月23日(金)オクタホールにおいて、第1回実験動物慰霊祭が挙行政されました。

実験動物慰霊祭は、本学の学生教育・研究及び医療の向上のために、尊い命を捧げてくれた多くの実験動物の御霊に対し感謝の意を表すためのもので、今年初めて挙行政いたしました。

全員黙祷の後、動物実験委員会委員長清宮健一教授による慰霊の詞が捧げられました。次に学長、動物実験委員長、動物実験施設長、実験動物管理者、事務部代表に続いて薬学部1・2年生の各代表が順次献花を行い、動物の御霊が安らかならんことを祈りました。



理事・評議員の異動

評議員

再任 安富 保

平成21年2月1日付

規程等の制定・改正 (規程等の全文は学内ネットに掲載)

No	項目	制定・改正の趣旨	制定・改正日
1	教授会で行う選挙に係る不在者投票実施要領	現在の「投票及び選挙に係る申合せ」を実態に即して変更し実施要領として具体的に制定	平成20年12月4日制定
2	研究活動に係る不正行為に関する調査委員会規程	研究活動に係る不正行為の定義の中に「研究費の不正使用・不正受給」を加え、改正については常務会に諮ることに変更するための改正	平成20年12月16日改正
3	兵庫医科大学教員役職者選考規程	図書館長、学生部長、教務部長及び先端医学研究所長の選考に関する規程・要領・申合せ等を一本化し、一部見直しを行うための制定	平成21年2月1日制定
4	感染対策委員会規程	感染対策について計画、立案、実施した内容を評価し改善を行うこと、その改善策の見直しを行うこと等を明文化するための改正	平成20年12月26日改正
5	兵庫医科大学病院入院及び外来診療規則	院内各種パンフレット等に記載されている「病院内のルール」を規則化し病院内の秩序を維持することによって、患者の権利と安全を確保するための制定	平成21年1月20日制定
6	病院規程	中央診療施設にIBDセンターを追加するための改正	平成21年1月27日改正
7	IBDセンター運営規程	炎症性腸疾患について内科・外科の診療連携をスムーズに行い、患者のQOL向上を目指すためのセンターの設置について制定	平成21年1月27日制定
8	学校法人兵庫医科大学基金規程	今後の教育・研究の継続的な充実・発展に向け、その基盤となる経営の健全化を図るため、新しく基金を創設し、継続的な募金活動をするための制定及び一部改正	平成20年10月7日制定 平成21年1月27日改正
9	学校法人兵庫医科大学兵医・萌えの会規程	学校法人兵庫医科大学基金規程第4条に基づく学校法人兵庫医科大学兵医・萌えの会についての規程の制定及び一部改正	平成20年10月7日制定 平成21年1月27日改正

兵庫医科大学 兵庫医科大学病院 学校法人兵庫医科大学

兵庫医療大学のための募金 状況報告

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成18年5月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会(保護者)、緑樹会(卒業生)、名誉教授、退職者等(651名)は言うに及ばず協力医療機関や関連企業等を始めとする幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、下記のとおり報告させていただきます。

皆様からご寄付いただきました寄付金を兵庫医療大学の教育研究用施設整備等充実のために利用させていただくとともに、これからも全力で大学の合理化推進等により、必要資金確保に向けて自主的努力を重ねてまいります。加えてぜひとも関係各方面からの更なるご支援を仰ぎお力添えをいただきたく、引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

募金推進室 18. 5. 2 ~ 20. 12. 31

区分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
申込	343件	642,374,000円	668件	189,300,000円	1,011件	831,674,000円
入金	337件	602,924,000円	675件	189,040,000円	1,012件	791,964,000円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

20. 11. 1 ~ 20. 12. 31

企業等法人(1法人)

(ご芳名のみ記載)
アクテリオンファーマシューティカルズジャパン株式会社様

教職員

(ご芳名のみ記載)
武井 怜子様
宮西 真規子様
匿名 4名

平成20年度 永年勤続表彰 (平成20年11月22日(創立記念日)現在)

本年度、勤続30年の9名の方々、勤続20年の8名の方々、および勤続10年の44名の方々が永年勤続表彰を受けられました。誠にありがとうございます。これからもお元気で、さらなるご活躍をお祈りいたします。

(敬称略・50音順)

30年勤続

職種	氏名	所属名
事務員	赤井 一之	神戸キャンパスオフィス 入試グループ
臨床検査技師	戎角 幸治	臨床検査部
看護師	岩崎 寮子	看護部(8階東病棟)
技術員	久保 博嗣	学務部 研究技術第1課
事務員	斉藤 泰子	看護部(中央手術部)
電話交換手	中畑 まゆみ	総務部 総務課
臨床検査技師	前田 和宏	輸血部
診療放射線技師	前田 善裕	核医学・PETセンター
事務員	松島 多津子	病院事務部 医事課

10年勤続

職種	氏名	所属名
看護師	青山 裕美	看護部(6階西病棟)
看護師	石田 由美	篠山病院 看護課第2病棟
看護師	伊又 るみ	看護部(耳鼻咽喉科外来)
事務員	伊田 ひとみ	病院事務部 管理課
事務員	入佐 賢一	病院事務部 医事課
看護師	戎谷 沙織	看護部(9階東病棟)
事務員	太田 武彦	経営企画室 経営企画課
看護師	岡山 カナ子	看護部
看護師	小川 統美	看護部(8-1病棟)
事務員	糟谷 健太郎	神戸キャンパスオフィス 教育・学生支援グループ
看護師	川口 恵	篠山病院 看護課第3病棟
看護師	川端 千春	看護部(CCU)
事務員	木口 孝志	病院事務部 医事課
事務員	木下 直子	学務部 教務学生課
看護師	木村 幸子	看護部(中央手術部)
事務員	黒川 智子	病院事務部 地域医療課
薬剤師	合田 昌子	薬剤部
看護師	小谷 美香	篠山病院 看護課第5病棟
事務員	小林 雄一郎	篠山病院事務部 会計課
事務員	阪永 諭	財務部 資材課
事務員	笹原 靖子	財務部 資材課
実験補助	柴田 尚子	放射線医学

20年勤続

職種	氏名	所属名
看護師	金本 智代	看護部(10-4病棟)
看護師	桑川 雅子	看護部(人工透析室)
臨床検査技師	阪上 直美	臨床検査部
看護師	玉井 友香	看護部(NICU)
看護師	内藤 紀子	看護部(心臓血管外科、呼吸器外科外来)
看護師	波々伯部 公美	看護部(9階西病棟)
看護師	峯瀬 美千代	看護部(10-8病棟)
看護師	山本 佳代	看護部(中央放射線部)

職種	氏名	所属名
管理栄養士	新谷 文利	篠山病院事務部 栄養室
看護師	副島 香織	看護部(10-5病棟)
看護師	田中 かおる	看護部 整形外科外来
薬剤師	田中 邦佳	篠山病院 薬剤室
薬剤師	豊岡 眞理	治験センター
看護師	永井 里美	篠山病院 看護課第1病棟
看護師	中村 滋子	看護部(7階西病棟)
臨床検査技師	中村 純子	病院病理部
看護師	西村 むつみ	篠山病院 看護課第3病棟
看護師	林 砂都美	看護部(内科外来)
看護師	原田 忍	看護部(内科外来)
看護師	平山 英子	看護部(10-8病棟)
助産師	深田 和泉	篠山病院 看護課第2病棟
実験補助	藤田 さとみ	内科学(冠疾患科)
臨床検査技師	村田 理恵	輸血部
看護師	森田 美鈴	看護部(10-6病棟)
看護師	森本 奈美子	看護部(10-5病棟)
助産師	安尾 千恵美	篠山病院 看護課第2病棟
事務員	矢野 裕丈	財務部 資材課
看護師	山田 裕基	看護部(8-1病棟)
看護師	吉見 智恵美	篠山病院 看護課第3病棟
事務員	和田 庄司	篠山病院事務部 庶務課

卒業生紹介



第16期生
早川 知彦さん
医療法人緑樹会
早川医院 理事長

近況

平成17年に医療法人 緑樹会 早川医院を開設しました。地域医療を中心とした内科・小児科の無床診療所ですが、IBD（炎症性腸疾患）外来の専門性が高く、兵庫医科大学とも連携を密にしています。また、保護司を拝命し更生保護に携わって7年になります。趣味は社会人サッカーで、南東北2部の相馬SCという地元チームの公式メンバーになりました。J2昇格は先のことですが、近々天皇杯で緑樹会のユニフォームが見られるかも知れません。

学生時代

今でも、兵庫医科大学の3-3講義室で頭を抱えている夢から覚めてホッとすることがあります。あれから20年も経ったんだなあ……。診療で困った時などは、やはり関西の友人に電話で相談することが多いです。兵庫医科大学時代の恩師、友人は一生の宝です。

卒業後に学んだこと

故下山孝教授のご高配で予防協会、宝塚市立病院で内視鏡を鍛えていただきました。また、小児科のローテートはとても有意義で、小児診療の基本を教えてくださいました。東北大学では、全医局員の論文を読まないというスパルタ教育を受けまし

た。研究中心でしたが、兵庫医科大学で学んだ事が基本となりました。各分野で「兵庫医科大学の先生方にはお世話になった」と言われることが多く、震災で慌てて嫁いだ先（東北大学）で実家（兵庫医科大学）の重みを実感したものです。

兵庫医科大学に期待すること

当院からも兵庫医科大学の外科、泌尿器科、リハビリテーション科に患者さんを紹介しています。患者さんが兵庫医科大学の掲載記事を持参して来られ、紹介を依頼されることは大変光栄です。現状の最先端医療を維持し続け、全国で兵庫医科大学卒の医師が活躍する場を作ってほしいと思います。

在学生の皆さんへ

良き友人を多数作ってください。医療崩壊とも言われる昨今ですが、私たち兵庫医科大学生で明るい未来を築こうではありませんか。

略歴

- 平成 5年 3月 兵庫医科大学卒業
- 6月 兵庫医科大学第四内科入局
- 平成 7年 3月 東北大学第三内科入局
- 平成17年 医療法人 緑樹会 早川医院 理事長
福島県医師会 理事（介護保険担当）、福島県医師会
福祉介護保険委員、武田薬品工業（株）消化器治療薬分野
アドバイザー、内科・消化器科6学会に属し、厚生労働省介護
支援専門員指導医でもある。
- 平成19年 6月 ARBと腎機能長期解析にて京都大学大学院医学研究科
EBMセンターより認証授与
- 10月 更生保護にて法務大臣表彰

職場

REPORT
レポート

地域住民の健康増進に貢献したい

しま まさゆき
公衆衛生学 | 島 正之 教授



兵庫医科大学 公衆衛生学

社会全体に活かされていく仕事

公衆衛生学は、疾病の予防、健康増進についてのScience（科学）であり、Art（技術）であると定義されています。社会医学の一分野であり、医学と社会の接点にあって、健康とそれに影響するさまざまな要因との関連を把握し、健康増進に活かしていくことを目的とする学問分野です。

私の講座では、主に大気汚染の健康影響に関する疫学研究、特に自動車排出ガスの健康影響に関する研究を行っており、環境省の事業として行われている全国的な疫学調査（そらプロジェクト）の関西地区を担当しています。実は自動車排出ガスが喘息など呼吸器疾患の発症の原因になっているかどうかは、大規模な調査で証明されているわけではありません。現在、阪神圏で交通量の多い地域に住んでいる方の健康調査などを行っています。

その他、兵庫県下のいくつかの自治体で医師会の先生方と共同で大気汚染の健康影響調査を行っていますし、昨年から北京大学と共同で、中国における大気汚染の健康影響に関する研究も開始しました。

予防が大切であると痛感

臨床研修医の頃、多くの喘息の患者さんを診る機会がありました。夜間に呼吸困難の発作を起こして救急外来を受診されるような方の中には、それで命を落としてしまう方もいらっしゃいます。命を救うという点では臨床医学は重要ですが、病気の治療だけではなく、原因を究明して予防することも大切であると痛感し、本格的に公衆衛生を志すようになりました。

調査など、行政機関や一般住民の方と一緒に仕事をする機会が多いので、できるだけ丁寧でわかりやすい言葉で説明するように心がけています。きちんと理解していただきご協力いただきながら、幅広く環境と健康に関する課題に取り組み、地域住民の健康増進に貢献することが自分の仕事だと思っています。特に、兵庫医科大学の位置する阪神間は自動車交通量が多いので、環境改善につながるようなエビデンスを発信していきたいと考えています。

医学・医療と社会との接点

公衆衛生学は臨床医学と異なり馴染みが薄いかもかもしれませんが、医学・医療と社会の接点にあります。医療に携わっていく上では、患者さんを人として、地域の一員として、その社会的背景までみるという姿勢、公衆衛生学的な素養（public health mind）が必要です。

本学でも、地域の公衆衛生を実践している西宮市保健所や、神戸の老人保健施設等の学外施設にもご協力いただき、医学部5年生全員が公衆衛生学の臨床実習を行っています。こうした実習を行っている医科大学は全国的にほとんどなく、本学の教育の大きな特徴であるといえます。このような取り組みを通じて、多くの皆さんに公衆衛生学に関心を持っていただき、広い視野を持つ医師になってもらいたいと思っています。



中国での肺機能検査

看護師・助産師募集

兵庫医科大学病院、篠山病院で働いていただける看護師・助産師を募集中です。応募については、下記までご連絡下さい。

WE SET SWEET

心地よい療養環境、Careの提供をめざします。

SWEETとはSincerity誠実（な行動）、Warmあたたかい（対応）、Evidence根拠のある（実践）、Ethics倫理（的感性）、Technique（確かな）技術の頭文字です。私たちが心に備えたいと願う5つの要素です。

兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL0798-45-6111（代）

病院ホームページ <http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/>

募集についての資料請求・お問い合わせは

【兵庫医科大学病院 人材対策室】

☎ 0120-456-199

TEL:0798-45-6543 FAX:0798-48-6261



患者さんやご家族に寄り添い、 精神面でも支援したい

はいばら 看護師 | 羽原 和江さん
かずえ 看護師 | 羽田 恵さん

兵庫医科大学病院

看護部 11階東病棟

精神面でのケアが欠かせない病棟

11階東病棟は血液内科の病棟です。主に、他院では治療が難しいとされる患者さんに造血幹細胞移植を行っています。入院が数ヶ月から一年以上と長期間にわたるうえ、無菌室といった特殊な環境のため、身体的な辛さだけでなく精神的なストレスが大きくかかります。気持ちを素直にぶつけてもらえるよう、患者さんに常に寄り添い、精神面での安定をサポートできるよう心がけています。ご家族とのコミュニケーションも大切にして良い関係を築くことで、患者さんだけでなくご家族への精神的フォローにも努めています。

徹底した感染管理体制

前処置(大量の抗がん剤投与や全身放射線照射)で免疫力が低下するので感染管理が重要です。スタッフ一人ひとりがスタンダードプリコーションを徹底し、リンクナースを中心に、スタッフや患者さん、ご家族が継続して感染予防行動が実行できるよう指導を行っています。



左から 羽原和江さん、羽田恵さん

チームでのサポートを行っています

治療による副作用や合併症などの辛い症状を少しでも予防し、また緩和できる方法がないか、常に考え医師ともよく話しあいます。さらに、緩和ケアチームやリハビリテーション部、歯科口腔外科をはじめコメディカルが連携して、患者さんをご家族をサポートしています。

毎日が忙しく、精神的に疲れることもあります。スタッフ間は明るい雰囲気、仲が良く、互いに思いやりを持って相談しあえるので、大変助けられています。

リンクナースとして感染管理に努めています

羽原 和江さん

リンクナースとして感染管理に努めています。感染管理は退院後も重要で、一緒に生活されるご家族の協力が欠かせません。患者さんに加えてご家族と一緒にわかりやすく説明するよう心がけています。

新人の頃は、自分が無力に思えて辛く感じたこともありましたが、治療を前向きに頑張っておられる患者さんの姿を見て、自分が少しでも力になることができたら、と頑張っています。これからも患者さんやご家族との精神面での関わりを大切にしていきたいです。また、後輩や同僚も同じように感じているのではないかとと思うので、スタッフに対しても精神的なフォローをしていきたいですね。

多くのことを学び、緩和ケアに取り組んでいきたい

羽田 恵さん

看護師として働いて2年目です。血液内科の病棟では特殊な治療やケアなどがあり、毎日が勉強。精神的に辛い時もありますが、患者さんやご家族に「11階東病棟でいい看護をしてもらった」と言っていただくようなときは励まされますね。これからもベッドサイドでの精神的ケアを大切にして、患者さんに安心して治療を受けてもらいたいと思います。

今後も、広い分野で知識と技術を身につけていきたいです。特に緩和ケアに関心があるので、緩和ケアチームや専門看護師、認定看護師など諸先輩方から多くのことを学ばせていただきたいと思っています。

まずは、 基礎をじっくりと 固めること

たなか としゆき
生体防御学 | 田中 稔之 教授



兵庫医療大学

薬学部 基礎薬学(生物系)

基礎薬学のうち生物系(生化学・生理学・生体防御学)は、生化学・神経生理学・免疫学などに関する基礎研究の推進と、生物系基礎薬学の講義・実習を担当しています。

生体防御学

生体防御学分野では、免疫のメカニズムを解明し、免疫学の立場から「免疫難病」や「がん」を克服するための基礎研究に力を注いでいます。また、独自の免疫不全マウスを用いた「幹細胞移植モデル」の作出にも取り組んでいます。研究室では、細胞培養・分子生物学などに関する基盤整備を進め、研究活動がスタートしました。これからは、新しい課題に積極的にチャレンジしたい。心と頭を働かせ、免疫で働く細胞のように動きながらの探索が大切だと思っています。

本学の薬学部では、講義・実習の他に、「長期密着型ゼミナール」を実施しています。これは、教員が担当する様々なゼミを学生が選択し、少人数のゼミナール形式で学んでもらうものです。私は「寺子屋」免疫生物学を開設し、現在は学生といっしょに細胞生物学の基礎を「じっくり学ぶ」ことに力をいれています。どんな分野でも、将来の発展の基盤になる「基礎」がとても重要です。まずは、基礎をじっくり固めること。そうすれば、はじめは時間がかかっても、スピードアップは必ずできると思います。

この他に、学内の遺伝子組換え実験や動物実験など、全学的な教育・研究環境の整備にも取り組んでいます。大学としても今は基盤作りの大切な時期。じっくりと取り組みなから、できればこれをエンジョイしたいと思っています。



左から 上田准教授・是金助教・山本教授・田中教授・大野助手・大河原准教授

生化学 大河原 知水 准教授

酸化ストレスが人々の健康に及ぼす影響について、良い方と悪い方の両方を明らかにするために研究を進めています。

酸化ストレスの防御が薬になったケースは、今のところあまりありません。目下、糖タンパク質をターゲットとして、病巣指向性組換えタンパク質の開発と、酸化ストレスの病態への関与の両面を研究しています。抗酸化酵素を臨床応用する上で、薬物動態に有利な性質をもった糖鎖の構造を明らかにすることはたいへん重要です。たいへん地味な研究で、実験も試験管の中が多いですが、常に体の中の動きを意識し、病気と健康との関わりについて追いつめ、治療薬として役に立つものを見つけたいと思っています。

努力は無限です。さらにパワーアップして、新入生を迎えたいと思っています。

生理学 山本 悟史 教授

救急医・麻酔科医としての経験から、「神経系の機能解析」と「神経疾患の病態解明と治療法開発」を研究テーマにしています。具体的には、単一神経細胞から電気活動を記録するパッチクランプ法などの手法を用いて、神経因性疼痛、脳虚血、シナプス伝達、グリア細胞機能に関する研究を行っています。

単に学問的な面白さを追求するだけでなく、研究で得られた知見を少しでも臨床の場に還元することを考え、また研究手法は、既知の方法に捕らわれず、新しい手法をデザインするように心がけています。

教育面では、医学部でいう生理学と解剖学を担当している他に、臨床医としての経験から、長期密着ゼミナール「医療コミュニケーション入門」を開講しており、コミュニケーション能力の高い実践力のある医療人を育成することで社会貢献したいと考えています。医療はサービス業。医療人を目指す学生には、学問としての知識や技術の他に、人との接し方、コミュニケーション能力を身につけてもらいたいと思います。

他大学との交流を深めていきたい

競技スキー部 主将 3年生 岩倉 亮さん

現在14名で、毎週月・水曜日に体育館や武庫川の河川敷で基礎体力作りやインラインのトレーニングをしています。この1月に行われた関医対(関西医学部対抗スキー選手権大会)では昨年度よりも成績がよくなりました!この調子で、3月に開催される西医体(冬季)でも好成績を残せるよう頑張りたいと思っています。

部の雰囲気はアットホームで仲が良く、休日も部員同士で出かけたりします。他のクラブ・サークルの人が練習

に参加することもあります。折角の大学生活ですので、なによりまず「皆が楽しんでくれること」を考えていますが、楽しむ時は大いに楽しみ、まじめに練習する時は厳しく、けじめをつけて練習しています。

また、他大学のスキー部とも交流が活発で、雪山を降りたところでも仲良くしています。今後も更に他大学との交流を深めていきたいと思っています!



志賀高原 横井山

2008年関西医歯薬1部秋リーグで優勝しました!

準硬式野球部 主将 4年生 塚田 遼さん

現在14名で、毎週火・木・土曜日に練習しています。関西医歯薬リーグ1部(春・秋)や西医体に参加しています。

とにかく、メンバー全員が野球に対して真面目!そして、何よりも野球を楽しもう!という気持ちが強く、練習でも飽きのこないメニューを色々と考えて取り入れるようにしています。

2008年の関西医歯薬1部秋リーグでは、京都大学医学部との最終戦を終え、16年ぶりのリーグ優勝を成し遂げました!!

西医体でも上位入賞を目指して頑張ります!ベスト4を狙います!



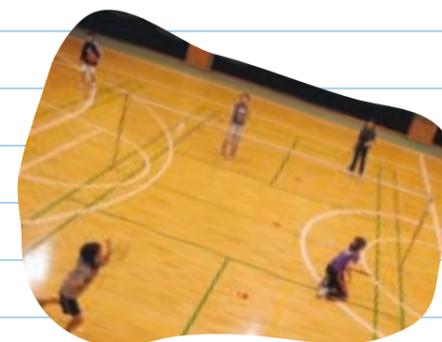
バトミントンを楽しみたい

バトミントン部 代表 薬学部2年生 宇廻 祐輔さん

現在30名で、週に一度のペースで活動しています。メンバーとは部活以外でも色々な話をしたり、食事に行ったりしています。昨年開催された兵庫医療大学初の大学祭では、バトミントン部から模擬店を出して参加しました。今まで以上に仲良くなれた気がします。

練習は苦しいだけのものにならないよう気をつけています。遊びの要素を取り入れたりして「楽しく」バトミントンができるように工夫しています。

体育館が使えるようになれば、連盟にも加盟し、本格的な練習を始めるつもりです。今後は、兵庫医科大学はもちろん、他大学のバトミントン部とも積極的に交流していきたいと考えています。



自主性を尊重していきたい

卓球サークル 代表 看護学部2年生 富岡 洵さん

現在8名で、1ヶ月に2回練習しています。この3月に年に1度開催される西日本医歯薬卓球大会に出場します。まだまだ練習不足ですが、力の限り頑張ります!

個性的なメンバーが多く、練習は真剣に取り組めますが、休憩時間はとりとめもないことを言い合っています。

卓球サークルを結成してまだ日が浅く、サークルの方向性やどう活動していくかを確立できていません。メンバー一人ひとりが意志を持って活動していくことが大切だと考え、自主性を尊重していきたい。そのうえで、ミーティングの機会を増やして話し合い、メンバー全員の力を合わせて、兵庫医療大学卓球サークルを創り上げていきたいと思っています。



兵庫医大で大規模訓練 緊急治療の手順確認

西宮



けがの特種メークをした患者役。医師がトリアージタグに番号を書き込んだ。西宮市武庫川町

大規模事故を想定した十人が治療の優先順位を訓練が十六日、西宮市の決めるトリアージや緊急治療の手順を確認した。兵庫医科大学病院であった。医師や学生約四百五十人。

同病院は定時了長尾徳幸が急病者百十三人を受け入れた。訓練開始と同時に傷病者役の学生を乗せた救急車や一般車両が次々と到着すると、医師らは「歩ける人は病院内へ」と呼び掛けてトリアージを実施し、重傷者は急病室へ運んだ。「死」、もしくは救命不可能を示す風船タグが付けられた人形に付き添った友人役が「なぜ治療してくれへんの」と哀訴。医師が「命を救える人を優先していただきます」と対応する場面もあった。山村武庫病院院長は「災害対策本部と各チームの連絡が取れず、本報で十分に情報が把握できなかったのが課題」と講評した。(切田悠巳)

平成21年1月17日 神戸新聞掲載記事

15歳で被災「命救いたい」決意



「救急救命医に」貫く志

救急救命医を目指す松岡信子さん
(西宮市武庫川町の兵庫医大で)

西宮市の兵庫医大5年、松岡信子さん(29)は、災害現場で活動する救急救命医を目指している。阪神大震災の際、がれきの前にあった、救助を求める張り紙を目の前にして、何もできなかった自分を恥じ、「専門知識を身に付けて、命を救いたい」と決意。何度も受験に挑んでようやく開かれた医師への道を進み、来春の国家試験に向け、臨床実習に励んでいる。

松岡さんは神戸市灘区の自宅マンションで震災に遭い、食器などが割れたが、家族にけがはなかった。外に出ると、崩れた民家の前に一枚の張り紙があった。「人が埋まっているので助けて下さい」しかし、女子中学生の自分にはできないとは、何も無い。その場を立ち去る。としかで

無力知り 歩んだ14年

「知識があれば救える命があるはず」と医師を志し、3浪の末、歯科でも役に立てるのではと2001年、いったん日大歯学部に入學。しかし、東京で救急車がひっきりなしに走るのを見たり、事故のニュースを聞いたりするたび、救急救命医への思いがよみがえり、1年間休学して、24歳で兵庫医大に入り直した。今は、ボランティアで小児病棟に入院する子ども達の遊び相手になり、大病院での臨床実習を精力的にこなす。体力が求められる厳しい現場にも「これからの人生は、他人のために費やしたい」と決意は強い。17日には神戸・東遊園地に行き、改めて医師を志した原点に立ち返った。「無力さを知るきっかけになった震災。多くの人と力を合わせて命を救いたい」と将来を見据えている。

平成20年1月19日 読売新聞掲載記事